

# 魅力ある教育環境へ

## 津山小学校が開校



柳津小学校と横山小学校が開校。新たに津山小学校が誕生しました。保護者が常に願うことは、子どもの健やかな成長。市教育委員会では、地域と共に教育環境の充実を目指します。

### 149年の歴史に幕 新たに津山小学校が誕生

本年3月に柳津小学校と横山小学校が開校。1873年(明治6年)の創立以来、149年にわたり子どもたちの成長を見守り続けてきた両校の歴史に幕が下り、4月から新たに津山小学校(鹿野征美校長、児童90人)が開校しました。

4月7日には開校式が開かれ、児童、教員、保護者、地域住民など関係者ら約180人が出席。熊谷盛廣市長から小野寺文見教育長に新たな校旗が手渡され、鹿野校長と児童代表の佐藤凜矩さんに授与されました。

開校式で鹿野校長は「ふるさとから学び、心豊かでたくましく生きる児童を育成していくことを教育目標とし、地域と共に教育活動を進めていく」とあいさつ。児童代表の言葉を述べた佐藤凜道さんは「両校が受け継いできた地域の文化を大切にしながら、全校のみんなが仲良くできる学校にしたい」と、期待に胸を膨らませました。

### 加速する少子化 求められる学校再編

5月1日現在の本市の小学校児童数は3324人で合併した2005年の時点から1517人減少。5年後の28年には、現在よりさらに650人ほど減少することが予測されています。

小規模校には、児童一人一人に目が行き届きやすいことや他学年とのつながりが深まりやすいことなどの長所はありますが、人間関係の固定化や友達が少ないことなどにより、さまざまな意見に触れる機会が少なくなり、学習意欲や競争心が芽生えにくくなる懸念があります。また、中学校では、部活動の種類が少なく、生徒の興味や関心に応える選択肢が制限されてしまうため、統合により一定程度の規模を確保することが必要です。

### 保護者と児童に寄り添い 魅力ある学校生活に

市教育委員会は、19年3月に登米市立小中学校等再編構想を策定して以来、津山地域の保護者、住民、市教育委員会が参加する準備委員会を設置。委員会では、校舎の老朽化や通学環境などについて要望があまりました。市教育委員会では、校舎の改修やスクールバスのルートを増やすことに対応するなど、関係者の声を聞きながら、地域と行政が一体となって開校に向けて検討を重ね、準備を進めてきました。

また、統合による環境の変化により、児童たちは不安や戸惑いを感じます。その不安を和らげるため、統合前に学校間の交流事業を実施。精神面にも寄り添いながら、魅力ある学校生活を送ることができるよう取り組んでいます。

### 教育環境の充実目指し 地域と共に歩みを進める

本市は、通学距離や時間、立地条件などを考慮して各町域に小学校を1校配置することと、クラス替えができるように各学年を2学級以上とすることを基本的な考え方として、学校再編を進めています。

津山地域は児童数の減少が著しく、横山小学校は以前から複式学級規模となっており、統合後も単学級ではありますが、子どもたちの教育環境を改善することができたと思います。

本市の学校再編は、まだ始まったばかりです。現在、東和、米山、南方地域でも小学校再編に向けた話し合いを進めているところでは。

市教育委員会では、未来を担う子どもたちのために教育環境の充実を目指し、保護者、地域の人たち、教育現場に携わる関係者と共に、これからも再編の歩みを進めていきます。



津山小PTA会長  
菅原 和彦さん

時代の流れとともに子どもが減少しているため、統合は仕方のないことだと思います。スポーツ少年団や地域事業なども、津山が一つとなって団結して活動していただきたいと思います。



津山小6年  
奥田 梨智さん

最初は統合することに不安もありましたが、みんな明るい性格で、すぐに打ち解けられそうなので安心しました。新しい友達との学校生活やいろいろな行事がすごく楽しみです。



津山小学校 校歌

一 朝日輝く 緑に揺れ  
希望豊かに 北上川  
明るく 元気に 真直ぐに  
津山杉のように  
笑顔あふれる 津山小学校

二 平和歌う 幸せを  
花咲く 未来へ 継ぐ 想い  
蒼空の 夢へと 逞しく  
あの 狗鷲のように  
笑顔あふれる 津山小学校  
笑顔こぼれる 津山小学校



1 津山小の校旗。校章は北上川、柳の葉、津山の山々をモチーフに、「小」の字はイヌワシをイメージしてデザインされた。2 開校式で児童代表の言葉を述べた佐藤さん。3 校歌は柳津小を卒業した林宏治さんと横山小を卒業した須藤雅さんが作詞作曲。穏やかな心を持ち、笑顔で元気に育ってほしいという願いが込められている。4 参加者全員で校歌を合唱し、新たな歴史の幕が上がった。